# みんなのページ

## 情報倶楽部　町内で活動している団体・サークルの情報提供　会員募集

### 英会話

**団体名**　ユハナのＥサークル
**日　時**　毎週水曜日（月２回）
▶午後２時30分～３時
…年少～年長
▶午後３時～３時40分
…小１～小２
**場　所**　長岡コミュニティセンター
**費　用**　月会費1,500円
**問合せ**　ユハナ　℡090―4069―0847

### フラダンス

**団体名**　アネラレイ
**日　時**　水曜日…
午後１時30分～２時30分
土曜日…午後５時～６時
**場　所**　元狭山コミュニティセンター
**対　象**　水曜日…60歳以上
土曜日…女性
**費　用**　月会費3,000円
**問合せ**　寺崎　℡090―6487―1237

### 水泳教室

★初心者歓迎。体験スイミングあり
**団体名**　ワイワイナイタークラブ
**日　時**　毎週火曜日
午後７時～９時
**場　所**　羽村市スイミングセンター
**費　用**　入会金　1,000円
月会費　3,000円
**持ち物**　水着、ゴーグル、帽子、タオル
**問合せ**　福間　℡090―1041―4515

### プリザーブドフラワー

★母の日ギフトアレンジメント
**団体名**　フラワーサークルひまわり
**日　時**　５月７日
午前10時30分～午後３時
**場　所**　長岡コミュニティセンター
**対　象**　初心者・どなたでも
**費　用**　2,500円
**持ち物**　クラフトはさみ、持ち帰り用袋、ごみ袋、新聞紙
**問合せ**　新井　℡090―4828―0659

### 太極拳

**団体名**　太極拳（自主クラブ）
**日　時**　毎週水曜日（月４回）
午前９時30分～11時
**場　所**　寿楽
**対　象**　おおむね60歳以上
**費　用**　月会費　2,000円
※12月と１月は練習２回ずつで１ケ月分の会費です。
※８月は休講です。
**問合せ**　花田　℡556―0890

## 平成27年度情報特派員

まちかどレポートの取材や投稿など、町の情報を伝えていただきます。

| 氏　名 | |
|---|---|
| 青木　和子 | 小暮　彰 |
| 阿部　知美 | 小南　良紀 |
| 岩田　美智子 | 山口　忠 |
| 川口　尊 | 吉積　愛菜 |
| 久保　好子 | |

（敬称略）

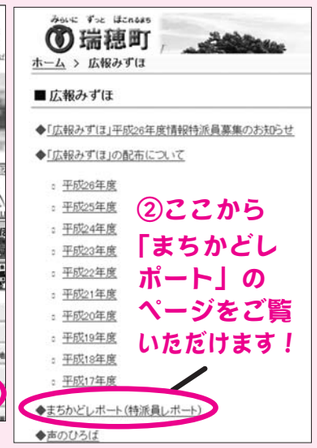
## 情報特派員募集中

**対　象**　町内在住の方
**内　容**
◎まちかどレポートの投稿（400字程度）
◎情報特派員会議の出席
◎地域の話題に関する情報提供　など
**応募方法**　応募用紙に必要事項を明記の上、秘書広報課に提出してください（郵送･ファクス･Eメール可）。
**応募先**　〒190―1292
瑞穂町大字箱根ケ崎2335番地
瑞穂町 企画部 秘書広報課 広報係
FAX556―3401
※応募用紙は秘書広報課で配布しています。町ホームページからもダウンロードできます。

## 町ホームページの「まちかどレポート」もご覧ください

【今月のホームページ掲載記事】　**「光陰矢のごとし」**

「広報みずほ」に掲載した記事以外に、情報特派員の皆さんからのレポートを町ホームページに掲載しています。「まちかどレポート」ページ閲覧の方法は、下記のとおりです。ぜひご覧ください。






# まちかど★レポート
## 特派員情報
### 特派員レポート①

## 瑞穂観光ガイド

先日、友人が我が家を訪れることになった。八王子市に住む友人２人は、そもそも八高線にあまり馴染みがなく、「乗っても拝島駅までだと」言う。つまり、箱根ケ崎駅には降りたことがない。別の友人は、瑞穂町を東京都ではなく埼玉県だと思っていたようである。

私としては大いに不満だったが、それなら、町をアピールする機会にしようと考え、町内を案内することにした。駅から歩き、狭山神社の次に「さやま花多来里の郷」を案内すると、「オーッ！！」と歓声を上げた。カタクリの群生を見たのは初めてだったようだ。

次は、少し足を延ばして、昨年11月にオープンしたばかりの「けやき館」に向かった。入口のけやきの大樹を見上げながら玄関に入ると、まず、ガイダンス・フロアーの地図に驚いていた。

私が、町の全景を見ながら、我が家を教えると、「自宅が分かるのか！！」と妙に感心していた。他の施設にはこうしたものがあまり無いようだ。こうして、だるま等、館内を次々に案内し、ちょっとした町の観光ガイド役を務めた。友人から改めて瑞穂町にお褒めの言葉をもらうと、なぜかちょっと鼻が高くなったような気がした。「町民の皆さん、瑞穂町はなかなかですぞ！どんどん町をアピールしましょうよ！」。

小暮 彰

▲狭山池と八重桜（撮影：小暮 彰）

## 動き出した「協働のまちづくり」

平成25年５月から始まった「瑞穂町の協働を考える会議」が、延べ22回の会議をもって今年３月で終了し、平成27年度からは、新たなステージでいよいよ実践に向けて動き出すこととなった。 この考える会議は町民９名と協働施策推進アドバイザーで構成され、役場の担当課と共に議論を重ねてきた。平成26年10月には、その理念を「瑞穂町協働宣言」として発表した。そして、その宣言に沿ってどのような方策でこのまちづくりを進めたら良いかを「瑞穂町協働宣言の実現に向けた提言書」にまとめ、３月に町長に提出した。

これからは新たに設置される「瑞穂町協働のまちづくり推進委員会」により、具体的な方策を検討することとなる。一方、役場内でも協働に関する会議や職員の研修を行い、官民一体となって推進していく。

さて、協働とはどんなことか、またなぜ協働が必要なのか。これは町民、ＮＰＯ、ボランティア、企業、行政など立場の違うもの同士がお互いを理解し合い、何か新しいことをしたい、現状を改善したい、などと思うことを実現しようとするものです。こうしてその活動の中に楽しさを見い出し、成果を上げてその喜びを分かち合うことが協働なのです。これが町の活性化になり、住み良い町づくりに繋がっていくと思う。

この記事を書いていてふと思ったことは、２年に及ぶこの会議がまさに「協働の事業」だ、ということである。

川口 尊

▲『瑞穂町協働宣言』の実現に向けた提言書の提出